

## 平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

生徒が自律しまた安心して暮らすことのできる学校づくりと、社会で自立し社会に貢献できる人材の育成

## 2 中期的目標

## 1 セーフティネットの高校として、外部から見てわかりやすいコンセプトをもった学校

## (1) 生徒が自律し安心して暮らすことのできる学校づくり

## ア 個々の生徒に応じたきめ細かな指導

## ・新学年当初早期の全生徒・保護者面談

\* 5月中旬までの全生徒面談 100%完了目標(長期欠席者は家庭訪問)とし(平成 24 年度 4 月末までで 90%)、それを維持する。5月中旬までに保護者面談 90%目標(来校不能の保護者は家庭訪問)とし(平成 24 年度は 75%)、26 年度 96%にし、それを維持する。

## ・新入生に関する出身中学校との早期の連携強化

\* 5 月末までの出身中学訪問 100%達成し(平成 24 年度は 4 月末で 85%、8 月末で 100%)、それを維持する。

## ・教育相談機能の充実(個別「サポートチーム」の充実)

\* サポートチームの充実等による、配慮を要する生徒に対する柔軟な成績評価(平成 24 年度は 3 名)を平成 25 年度は 4 名以上に対して行い、それを維持する。

## ・障がいのある生徒について可能な限りの支援を組織的に行う。

\* 障がいのある生徒・保護者の聞き取りによる支援に関する満足度を平成 25 年度 90%とし、それを維持する。

\* 保護者対象学校教育自己診断で、学校に対する満足度(平成 24 年度 90.3%、但し、「わからない」を母数から除す)を毎年 1%以上上昇させ、平成 27 年度には 94%にする。

## イ いかなるいじめも決して許さない・見逃さない指導と、毅然としたかつ生徒の実態に即した生徒指導

## ・厳格で公平な生徒指導の一層の充実とともに、生徒の実態に即した生徒指導内規緩和と運用上の緩和を図る。

\* 懲戒人数(平成 24 年度は前年度より 17.7%減少)及び総停学日数を平成 25 年度は 40%減少させ、26 年度以後毎年前年度比 5%減をめざす。

## ・不登校・いじめられ経験をもつ生徒が登校改善できるよう図る。

\* 新入生の登校改善(平成 24 年度入学生は、不登校・いじめられ経験をもつ者のうち 84%が改善)を継続する。

\* 生徒対象学校教育自己診断で、学校に対する満足度(平成 24 年度 60.7%)を平成 25 年度 65%とし、平成 27 年度に 75%にする。

## ウ 部活動の活性化

## ・入部を促す取組みの継続と強化

\* 部活動加入率(平成 24 年度 51%)を平成 25 年度 55%とし、平成 27 年度には 63%にする。

## ・重点部活動の強化

\* 写真芸術部の全国大会レベルコンクール優勝回数(平成 24 年度 3 回)を維持する。また、工学研究部の製作取組み(平成 24 年度 3 種類)を平成 25 年度以降も維持する。ダンス部発表回数(平成 23 年度は 8 回)を毎年 1 回以上増やし、平成 26 年度 10 回にし、それを維持する。ダンス部・工学研究部の学校説明会での紹介・発表を維持する(平成 24 年度 4 回)。

## ・耐震工事による運動部の衰退防止のため、グラウンド使用部活動の学校外での活動を保障できるよう、自助努力に努める。

## ・国際交流同好会の部昇格。および交流プロジェクトを新たに組織し、同プロジェクトを中心に、姉妹校である韓国セヒョン高校とのインターネット会議等の交流を行う。

\* インターネット会議等による交流を平成 25 年度は 2 回、26 年度以降は加えて相互派遣 1 回以上実施

## エ 校内環境整備

・区役所、地域住民・地域の小・中学校等の協力を得ながら緑化推進を行なうとともに、老朽化施設設備の整備を求めていく。

\* 中退率を毎年 1%以上減少させる(平成 24 年度は前年度より約 1.5%減少)。

## 2 生徒が将来に展望をもてる教育を進める学校

## (1) 学力の充実と希望進路の実現

## ア 基礎基本の定着

・平成 24 年度に 1 年生「産業社会と人間」を活用して初めて行なった取組みである「学び直し」指導を平成 25 年度新入生でも継続するとともに、2 年生での継続的な取組みと他の教科への拡大を図る。また、月～金の「早朝学習」を 1 年生希望者に実施

\* 「早朝学習」の定期的参加者率平成 25 年度 15%をめざし、それを継続する。

## ・授業規律の徹底(懲戒に結び付けた強力な指導)

\* 生徒対象学校教育自己診断で、「授業に集中している」回答(平成 23 年度 60.5%)を平成 25 年度 64%とし、平成 27 年度には 70%にする。

## イ 教職経験の少ない教員の教育力向上

## ・「新人育成プロジェクト」による組織的指導、ミドルリーダーによる指導強化

\* 「新人育成プロジェクト」による学校教育自己診断に関する取組み状況

\* 経験の少ない教員による相互授業見学・相互検証(平成 24 年度一人平均約 4 回)維持

## ウ 遅刻・欠席・早退減の取組みの継続

## ・遅刻・欠席・早退減に向けた組織的な取組みの継続

\* 欠席率・遅刻率・早退率を平成 25 年度以降毎年各 10%ずつ減少させる。

## エ 早期からの進路指導の強化(「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業推進校として、就職内定率の改善と進路未決定者ゼロをめざす。)

## ・進路指導部の新たな体制を築き、進路指導部と担任団による就職指導の強化を図る。

## ・進学保障の強化

\* 工業系生徒の「数学」履修による工業系大学指定校推薦入試での入学実現

## ・平成 24 年度 1 年生からの新たな計画的進路指導改革を 25 年度以降も継続する。

\* 進路未決定卒業生を 25 年度は以降毎年 3%減少させ、平成 27 年度は 10%未満にする。

\* 卒業生の就職内定率を 25 年度から毎年 5%向上させ、27 年度には 93%以上にする。

## 3 地域社会の一員として、地域に見守られ地域に貢献できる学校

## (1) 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり

## ア 地域の諸機関・事業所との交流・連携

## ・保育園・小学校・中学校・高齢者福祉施設・警察署との交流・連携の継続と強化

## ・本校体育祭・文化祭への招待

## ・小学校や高齢者福祉施設との交流の継続

## ・特に城東区役所との連携強化

\* 取組み回数による評価

- イ 地域に向けた「成城カルチャー講座」継続・充実と地域への情報発信強化
- ・「成城カルチャー講座」の継続・拡大
    - \* 地域の回覧板による「成城カルチャー講座」の案内文の回覧3回を維持
    - \* 「成城カルチャー講座」受講人数(平成24年度は33名受講)を毎年3名以上増やし、平成27年度には40名にする
  - ・文化祭・体育祭の地域等への門戸開放を一層進める。
- ウ 学校からの発信強化
- ・校長が先頭に立った情報発信の継続
    - \* 校長が中学校(進路指導主事・3学年主任)訪問を毎年40校以上行う(平成24年度は37校)。
    - \* 中学校・市民ホール・区民ホール等で開催される高校説明会や本校で実施する学校説明会等でのプレゼンテーションをすべて校長が行なう姿勢を貫く。
  - ・校門横木製掲示板、「成城高校電子掲示板」、成城高校メールマガジン、ホームページ更新回数活用充実
    - \* 活用・更新の合計回数(平成24年度は合計285回)を310回とし、27年度は320回にする。
  - ・地元自治会掲示板、地域の回覧板の活用充実
    - \* 「成城カルチャー講座」案内以外の活用回数(平成24年度は合計14回)を16回とし、それを維持する。
- エ 成城高校の教育活動・現況に関する、地域住民からの聞き取り
- ・地域住民からの聞き取り調査の実施
- 4 平成26年度入学者選抜制度改革への対策を進めるとともに、府立高校の改編整備計画のうち、セ・フティーネットとしての役割を本校が積極的に果たせるよう、将来に向けた計画的で積極的な取り組みを進める
- (1) 情報・宣伝活動の継続・強化
- ・中学校進路指導主事及び塾・予備校関係者対象学校説明会の継続・充実
  - ・校長が先頭に立った情報・宣伝活動の継続
    - \* マスメディアの活用(平成24年度はNHKでの報道全国2回、関西2回、毎日新聞1回等、マスコミ計7回。区役所等での宣伝2回)を継続
- (2) 平成26年度「商業実務系列」実施(2年生)のための設計
- ・「商業」免許保持者を中心に「成城みらいプロジェクト」による設計(カリキュラム精査、資格取得に向けた準備等)
- (3) クリエイティブ・スクールへの改編後はじめてとなる、電気工事士資格取得(平成26年度)をめざした取り組み準備
- ・2年生後期からの受験指導開始、1年生に対する動機づけ
- (4) 特別進学指導(ハイレベル講習)を1年生で継続し、新たに2年生でも開始
- (5) エンカレッジスクールについての研究を進めるとともに学び直し学習の強化を図る。
- (6) 入学者選抜における、定員の各5%の校長特別推薦・普通推薦の実施に向けた制度設計を関係部署に要請していく。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 セイフティネットとして、外部から見てわかりやすいコンセプトをもった学校	<p>(1)生徒が自律し安心して暮らすことのできる学校づくり ア 個々の生徒に応じたきめ細かな指導</p> <p>イ いかなるいじめも決して許さない・見逃さない指導と、毅然としたかつ生徒の実態に即した生徒指導</p> <p>ウ 部活動の活性化</p> <p>エ 校内環境整備</p>	<p>ア・新学年当初早期の全生徒・保護者面談</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生に関する出身中学校との早期の連携強化</li> <li>・教育相談機能の充実（個別「サポートチーム」の充実）</li> <li>・障がいのある生徒について可能な限りの支援を組織的に行う。</li> <li>・特に新入生については、各クラスにピア・サポーターとして生徒1～2名を任命し、担任の指導のもと、発達障がい等の障がいのある生徒や学力の到達度の低い生徒に対する支援を行わせる。</li> </ul> <p>イ・厳格で公平な生徒指導の一層の充実とともに、生徒の実態に即した生徒指導内規緩和と運用上の緩和を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校・いじめられ経験をもつ生徒が登校改善できるよう図る。</li> </ul> <p>ウ・入部を促す取組みの継続と強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点部活動の強化</li> <li>・耐震工事による運動部の衰退防止のため、グラウンド使用部活動の学校外での活動を保障できるよう、自助努力に努める。</li> <li>・国際交流同好会の部昇格。国際交流プロジェクトを新たに組織し、同プロジェクトを中心に、韓国セヒョン高校とのインターネット会議等による交流実施</li> </ul> <p>エ・区役所、地域住民・地域の小・中学校等の協力を得ながら緑化推進を行なう。</p>	<p>ア・5月中旬までの全生徒面談100%完了目標(長期欠席者は家庭訪問)(平成24年度4月末までで90%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月下旬までに保護者面談90%完了(来校不能の保護者は家庭訪問)とし(平成24年度75%)</li> <li>・5月末までの出身中学訪問100%(平成24年度4月末85%、8月末100%)</li> <li>・サポートチームの充実等による、配慮を要する生徒に対する柔軟な成績評価4名(平成24年度3名)</li> <li>・障がいのある生徒・保護者の間取りによる支援に関する満足度90%</li> <li>保護者対象学校教育自己診断で学校に対する満足度91.3%(平成24年度90.3%、「わからない」除す)</li> <li>・ピア・サポーター設置状況(6クラス中4クラスをめざす)、具体的な支援状況</li> </ul> <p>イ・懲戒人数と総停学実数前年度比40%減(平成24年度前年度比17.7%減)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校・いじめられ経験をもつ新入生の登校改善(平成24年度84%)維持</li> <li>生徒対象学校教育自己診断で、学校に対する満足度65%(平成24年度60.7%、無効回答除す)</li> </ul> <p>ウ・部活動加入率55%(平成24年度51%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真芸術部の全国大会レベルコンクール優勝回数(平成24年度3回)と工学研究部の製作取組み(平成24年度3種類)維持。ダンス部発表回数9回(平成23年度8回)。ダンス部・工学研究部の学校説明会での紹介・発表(平成24年度4回)維持</li> <li>・学校外での活動保障状況による。</li> <li>・国際交流同好会の部昇格及び国際交流プロジェクト創設とインターネット会議等による交流2回</li> </ul> <p>エ・緑化状況</p>	

<p>2 生徒が将来に展望をもてる教育を進める学校</p>	<p>(1) 学力の充実と希望進路の実現 ア 基礎基本の定着  イ 教職経験の少ない教員の教育力向上  ウ 遅刻・欠席・早退減の取組みの継続 エ 早期からの進路指導の強化(「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業推進校として、就職内定率の改善と進路未決定者ゼロをめざす。)</p>	<p>ア・1年生「産業社会と人間」を活用した「学び直し」指導の継続と、「算数・数学の学び直し」の継続及び他教科への拡大、2年生でも実施。月～金の「早朝学習」を1年生希望者に実施 ・授業規律の徹底(懲戒に結び付けた強力な指導)  イ・「新人育成プロジェクト」の充実、授業見学・観察の継続 ・「新人育成プロジェクト」による学校教育自己診断に関する取組み ・ミドルリーダーによる組織的指導 ・タブレット端末を使った授業力向上 ウ・遅刻・欠席・早退減に向けた組織的な取組み継続 エ・進路指導部の新たな体制を築き、進路指導部と担任団による就職指導の強化を図る。 ・進学保障の強化  ・平成24年度1年生からの新たな計画的進路指導改革継続 ・電気工事士26年度3名合格に向けた準備開始</p>	<p>ア・「産業社会と人間」での「学び直し」指導の実施状況及び他教科での実施状況、2年生の状況 「早朝学習」の定期的参加者率15% ・生徒対象学校教育自己診断で、「授業に集中している」回答64%(平成23年度60.5%) イ・自己診断取組み状況 経験の少ない教員による相互授業見学・相互検証維持(平成24年度一人平均約4回)。 ウ・欠席率・遅刻率・早退率各10%減少 エ・進路指導体制刷新状況  ・工業系生徒の「数学」履修による工業系大学指定校推薦入試での入学状況 ・進路未決定卒業生3%減少、就職内定率5%向上 ・準備状況</p>	
<p>3 地域社会の一員として、地域に見守られ地域に貢献できる学校</p>	<p>(1) 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり ア 地域の諸機関・事業所との交流・連携 イ 地域に向けた「成城カルチャー講座」継続・充実と地域への情報発信強化  ウ 学校からの発信強化  エ 成城高校の教育活動・現況に関する、地域住民からの聞き取り</p>	<p>ア・保育園・小学校・中学校・高齢者福祉施設・警察署との交流・連携の継続と強化 ・本校体育祭・文化祭への招待 ・小学校や高齢者福祉施設との交流の継続 ・特に城東区役所との連携強化 イ・「成城カルチャー講座」の継続・拡大  ウ・校長が先頭に立った情報発信の継続  ・文化祭・体育祭の地域等への門戸開放を一層進める。 ・校門横木製掲示板、「成城高校電子掲示板」、成城高校メールマガジン、ホームページの活用充実 ・地元自治会掲示板、地域の回覧板の活用充実  エ・城東区諏訪地域活動協議会の構成員からの聞き取り調査</p>	<p>ア・取組み回数による評価  イ・地域の回覧板による「成城カルチャー講座」案内文の回覧回数(平成24年度3回)維持 「成城カルチャー講座」受講人数36名(平成24年度33名受講) ウ・校長による中学校(進路指導主事・3学年主任)訪問40校(平成24年度37校)。高校説明会や学校説明会等におけるプレゼンテーションでの校長の取組み状況 ・文化祭・体育祭来場者数 ・活用及び更新の合計回数310回(平成24年度は合計285回) ・「成城カルチャー講座」案内以外の活用回数16回(平成24年度は合計14回) エ・構成員(35名)の半数以上からの聞き取り調査の実施</p>	